

令和4年8月31日

亀岡市議会議長 福井 英昭 様

会派名 新清流会
幹事長 西口純生

会派視察調査報告書

会派視察調査の結果について、下記のとおり報告します。

記

- 1 視察期間 令和4年8月3日（水）～5日（金）
- 2 視察場所 北海道恵庭市・鹿追町・札幌市
- 3 調査項目 恵庭市：「ガーデンフェスタ北海道2022」における花
と緑のまちづくりの取組について
鹿追町：環境保全センターバイオガスプラントの取組に
ついて
札幌市：食育推進計画に関する取組について
- 4 参加議員 西口純生、菱田光紀、平本英久、福井英昭、石野善司、
齊藤一義、奥野正三、小川克己、浅田晴彦、大塚建彦
の10名
- 5 概 要 別紙のとおり

視 察 概 要

≪北海道恵庭市行政視察≫

| | |
|---------|--|
| 視 察 場 所 | 北海道恵庭市 |
| 調 査 項 目 | 「ガーデンフェスタ北海道2022」における花と緑のまちづくりの取組について |
| 視察の目的 | <ul style="list-style-type: none"> ・ フェスタへのエントリーから開催までのプロセスは。 ・ 開催までの間、どのように市民意識を高めたのか。 ・ 事業の成果はどうだったか（市外、道外からの入込と消費の状況。近隣への波及効果など） ・ 今後のまちづくりへの展開は。 |
| 施策等の概要 | <p>⇒昭和36年に民間団体である恵庭市花いっぱい文化協会が設立され花のまちづくりをスタートさせた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成3年には、ニュージーランドクライストチャーチ市を視察し、オープンガーデンのヒントを持ち帰る。 ・ 平成10年に「えにわ花のまちづくりプラン」を完成させ、以後これに基づくまちづくりを進める。 ・ 平成28年に花の拠点計画を策定し、平成30年にプランの改定を行う。 ・ 令和元年5月に道内の造園業者や市民有志が恵庭市長に令和4年開催要請を行い、11月に北海道知事、恵庭市長が開催招致を表明した。 ・ 令和2年11月に花の拠点「はなふる」がオープン。 <p>⇒FM ラジオの活用や公式ガイドブックを全戸配布するなどした結果、市内外から予想を上回る動員が得られた。（コロナ禍にも関わらずメイン会場で30万人予定が34万人の来場者を得られた）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年8月に市民が企画から参画し、主体性をもって緑化フェアに参画する「サポーターズクラブ」を市民50～60人で発足させ、イベントの企画、立案、実施などに積極的に関わってもらった。 ・ フェア終了後も市民ボランティア組織の「片づけ隊」によって1,100㎡、25,000株の花の片づけを行った。 <p>⇒北海道フェアとして道内各市町の32の協賛会場でガ</p> |

| | |
|--------------|--|
| | <p>ーデンフェスタカードを配布するなどして機運を盛り上げた。波及効果などについては、終了直後で把握できていないが相当な効果が得られたのではないか。</p> <p>⇒花のまちづくりという市のコンセプトが明確であり、オーダーメイドツアーへの参加から移住に至った経過もある。大都市札幌市へJRで30分、空港へ10分という立地で地価が安いいため人口増加が続いている。</p> |
| <p>考 察</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・本市にはまるごとガーデンミュージアム構想があり、世界に誇れる環境先進都市としての取組がある。このことを今後も前面に押し出し、本市のイメージを明確にすることで市民意識を向上させ、市外からの入込客増、強いては人口増加に繋げることができると感じた。 ・本市で同様の事業に取り組む場合は、市民をいかに主役にしていくかがカギを握ると思う。 |
| <p>議員意見等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・花のまちづくりというコンセプトが明確でわかりやすく、そこに市民力が結集できたことがフェスタの実施に繋がっており、そのことがまちのイメージを明確にしている。 ・市民が主体性をもってフェスタの企画、立案、実施などに関わっており、そのことが事業効果を高めたと思われる。合わせてそのことからまちの魅力が発信されたと感じた。 ・恵庭市のみならず訪れたどの町でも個人の庭などが花で飾られ、まちの落ち着きを醸し出していた。フェスタの成果であるように感じた。 |

2022. 8. 3 北海道恵庭市会派行政視察



開会挨拶（西口幹事長）



視察進行（恵庭市議会事務局）



説明風景



視察謝辞（福井議長）



現地会場視察



花壇かたづけ隊による活動風景



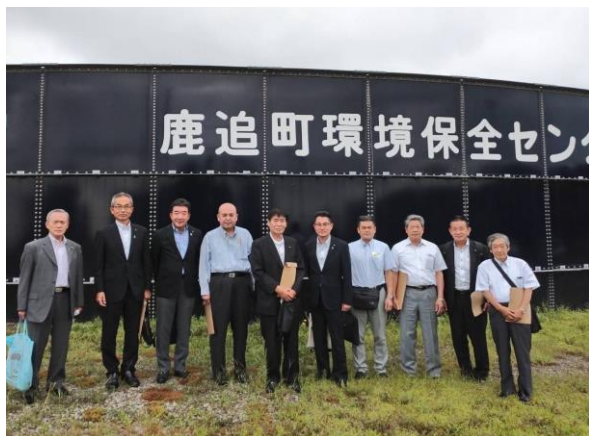
現地会場視察

≪北海道鹿追町行政視察≫

| | |
|--------|--|
| 視察場所 | 北海道鹿追町 |
| 調査項目 | 北海道鹿追町環境保全センター「バイオガスプラント」の取組について |
| 視察の目的 | 本市は亀岡市農業公園に土づくりセンターがあり、ふん尿やコーヒー粕等を混ぜて拡散し、肥料化しているが大変強い悪臭や、カラスの大群に近隣住民からは苦情が出ており、市との地域こん談会では毎年議題に上がっている。そこで、ガスプラント施設で、問題解決されている鹿追町視察を行った。 |
| 施策等の概要 | 鹿追町はバイオガスプラントを中心とした町づくりを行っておられるが、鹿追町は農業の町で、農業生産額は約226億円。農家200戸のうち、畑作100戸、酪農100戸であるが、酪農業の生産額が多い。平成25年ジオパークに認定された然別湖が観光の目玉であるが、その観光客や陸上自衛隊鹿追駐屯地に住む家族からふん尿の悪臭の苦情があり、町として農家とともにバイオガスプラント誘致に取り組んだ。さらに市街地から出る生ごみも含め、1期目総工費17億4,500万円（国55%、残り45%を道と町が負担）で稼働し、2期目は27億4,700万円（防衛省民定安定事業、特例補助金）などを活用して稼働し、毎年利益から1億円を基金に積み立てている。本市には自衛隊駐屯地がなく、プロポーザルで民間事業者投資の設置が現実的と考える。また、本市の3倍の処理をしているが臭いは微量であり全く無臭と言ってもよい。さらに、発電時に出る熱を有効利用し、チョウザメ養殖やマンゴー・ジャガイモ栽培、水素ファームまである。 |
| 考察 | 鹿追町は送電線が弱く、電力消費地の都会も近隣になく、増産は無理だが、本市は大丈夫である。 鹿追町長いわく「一石五鳥のメリット」がある。 1. 環境の改善 2. 農業生産力の向上 3. 地球温暖化の防止 4. 環境型社会の形成 5. 地域産業活性化の推進 |

| | |
|--------------|--|
| <p>議員意見等</p> | <p>ぜひとも本市に導入すべきと考える。視察時、質疑の最後に「鹿追町は自衛隊関連交付金などで恵まれているが、もしそれがなければ」の質問に、「赤字でも臭いの軽減は町民や観光客のためにしなくてはならない」と答えられたのには感銘した。</p> |
|--------------|--|

2022. 8. 4 北海道鹿追町会派行政視察



鹿追町環境保全センター前



視察項目の説明を受ける



発酵したガスの処理施設を見学



処理タンクを見学



水素ガス公用車の表示



しかおい水素ファーム

≪北海道札幌市行政視察≫

| | |
|--------|--|
| 視察場所 | 北海道札幌市 |
| 調査項目 | 食育推進計画に関する取組について |
| 視察の目的 | 先進地である札幌市で行われている食育を本市で導入することは可能か。 |
| 施策等の概要 | 平成30年3月に第三次食育推進基本計画を策定。国の重点課題を踏まえる。第二次計画の成果や課題を整理し、食育に関する取組を総合的かつ計画的に推進することなどを基軸に、平成30年度～令和4年度までの5年間を計画期間として事業推進し、令和4年度は最終年となる。基本目標としては、健やかで心豊かな食生活の実現を掲げている。 |
| 考察 | これまで掲げてきた基本目標に基づいて年次経過を詳細に調査、検証を行い、達成科目や達成率を的確に分析し、次年度目標や計画を経て着実に事業推進されてきた。市民に向けては、子どもや児童に保育所や学校での朝食の重要性の周知や成人就労者の野菜接種率を向上させるべく企業や事業者への協力要請など、多世代に向けて、常に正確な情報発信を行って来られた。これは長期間にわたり執行部が有識者や関係団体との連携により、実現したのではないかと考察する。 |
| 議員意見等 | 本市においても食育を進めていくなれば、一足飛ばしで進めるのではなく、綿密に計画を立て、年次目標を着実に進めなければ成果は見込めないのではないかと。また、計画の作成においては、まずはしっかりと現状把握を行い、有識者や協力いただける関係団体と強い連携が必須であると考え。さらには、食育の事業を推進する上で、対象とする年代やターゲットにマッチした計画であること、周知や共感をいただけるよう丁寧な説明や広報に心がける必要があると考える。 |

2022. 8. 5 北海道札幌市会派行政視察



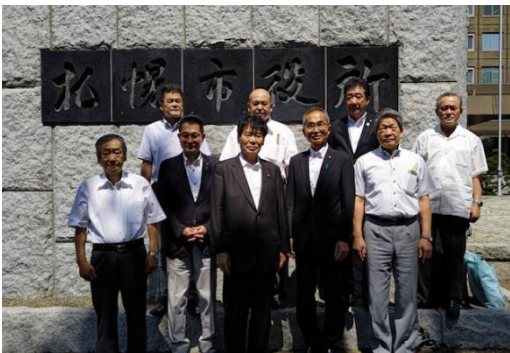
札幌市庁舎内で先進事例の紹介を受けている様子



行政視察の資料



取組状況の紹介資料



札幌市役所庁舎前